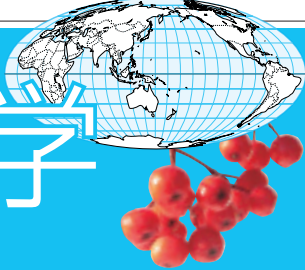


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
アジアの時代に、アジアを学ぶ。
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol. 23
2017.12.20
発行: 北海商科大学
編集: 北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL: 011-841-1161 (代)
FAX: 011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作: (株)ラボット

主な記事

3.	オープンキャンパス開催	2面
4.	山梨大学(威海)と煙台大学から短期研修生来日	2面
5.	交換留学生出発	2面
6.	2017、2018年度のキャリア支援について	3面
7.	後期ガイダンス実施	3面
8.	2年次所属学科決定	3面
9.	HINAS特別セミナーと中国社会科学院との交流	3面
10.	外国語スピーチコンテスト結果報告	4面
11.	特殊講義 北海道創生プログラム	4面
12.	物流施設見学・就職説明会 in 苫小牧に参加	5面
13.	中鉢ゼミ バリ観光現地調査	5面
14.	留学だより	5面
15.	「研究のいま」古矢旬先生	6面
16.	ゼミ訪問 中西ゼミ	6面
17.	OB・OG NOW!	6面
18.	第5回高校生懸賞作文の募集と表彰式	7面
19.	体育祭&北海商科祭 Photo Gallery	7面
20.	2017年度後期公開講座開催	8面
21.	BOOKS NOW!	8面
22.	新刊紹介	8面
23.	医務室から「二十代の健康」連載 ⑪	8面
24.	協定大学来日教員紹介	8面
25.	浅羽祭挙行される	8面
26.	行事予定	8面

moment 一思いを結ぶとき—

第12回 北海商科祭が開催される！



北海学園大学と

連携協定を結ぶ

履修の単位互換を行う

北海商科大学商学部と北海学園大学人文学部は平成29(2017)年11月9日単位互換に関する協定に調印をいたしました。

単位互換を通じ両学部の学生が、それぞれの学部の授業を履修し、本学学生は人文学部の言語・文化や歴史、人文学部の学生は観光産業学科関連の授業科目を学びます。

北海学園大学人文学部は、旅行や観光関連を希望する学生の就職支援を強化することが狙いで、本学としても、幅広い教養（特に言語や文化・歴史など）を学修することを目的に相互協力をしていくこととしました。

調印式には森本正夫理事長・学長、北海学園大学安酸敏眞学長、北海商科大学伊藤昭男商学部長、北海学園大学上野誠治人文学部長ら9名が出席し協定書に署名、調印しました。

受け入れの人数などは各年度10人以内とし授業料追加は無く、習得単位数は12単位

北海商科祭報告記

本年度の北海商科祭は、9月23日の秋分の日に本学を会場として盛大に行なわれ、学生達の創意工夫で充実した内容となりました。

JAのつばろの野菜販売は、11時の販売開始前に、ご近所の方を中心に多くの方が列をつくるほど盛況で、用意したニンジンやピーマンなどはあっという間に売り切れました。広くキャンパス周辺の方々に商科祭が知られてきたことが感じられた瞬間でした。また、復活したお化け屋敷は、夜遅くまで設営にがんばった学生達の努力が結集したすばらしい出来ばえになりました。そして窓にも掲示を出すなど随所に工夫がみられ、多くの家族連れで賑わいました。特設ステージでは、サークル対抗の早

食いや大学生クイズなどのほか、ダンスやYOSAKOIソーランの演舞、そしてアーティストのライブと盛りだくさんのプログラムが展開されました。プログラム企画だけでなく、学生達はステージの設営も手伝うことによって、イベントを作り上げるおもしろさと大変さを実感できたと思います。

秋特有の変わりやすい天気の中、最後は雨のなかでのライブや抽選会になりました。最後まで盛り上げようとし、また、ずぶ濡れになりながらの撤収作業も手際よく進められ、本当に学生達の底力には感服いたしました。この北海商科祭のために、実行委員会のメンバーは夏休みを返上して広告など協賛依頼やポスターやパンフレット作成をし、いろいろな困難を乗り越えながら、遅れ気味の作業も次々と進めていきました。きっとこれからの人生のよい経験になると思います。（加藤）

以内で、ただし卒業単位には含まない自由単位として評価し、平成30(2018)年度より実施します。（葛西）

写真内前列右から伊藤昭男商学部長、森本正夫理事長・学長、安酸敏眞北海学園大学学長、上野誠治北海学園大学人文学部長。後列右から葛西事務長、堂徳将人教授、郡司淳北海学園大学人文学部教授、柴田崇北海学園大学人文学部教授、藤井北海学園大学人文学部事務長





写真上：全体説明会 下左：英語模擬講義 下右：参加者にかき氷を提供し、学生スタッフと懇談したカフェスペース
写真はいずれも第二回オープンキャンパス（8月6日）

3

4

5

短期留学交換研修生来日 日本語研修と 中国語合同講義

本学では、毎年、協定校である山東大学威海校と煙台大学から短期留学生を受け入れています。今年は両校から合計20名の短期留学生を迎え、7月21日に本学の一年生の中国語履修者と合同授業を実施しました。

まず中国人学生は日本語で、日本人学生は中国語で自己紹介を行ったあと、「中国人と漢字及び漢字文化の意義」を共に学びました。漢字には象意文字がたくさんあり、わずか一文字か二文字で複雑な意味を語る力があります。例えば、「臭」という字を学ぶ際、「自」、「大」、「一点」と分解して読むと、「自大一点」＝臭。即ち、自ら尊大ぶることがあれば、ほんの少しであっても臭くなることを意味しています。

合同授業では、語学力は入門レベルにもかかわらず、学生たちは身振り手振りで話を交わし、ときに筆談も用いて交流を深めました。最後にみんなで「朋友」という歌を中国語で合唱し、合同授業を終えました。（蘇林）



写真上左・右：山東大学威海校からの研修生・朱勇豪さん(写真上右内の中央)が本学学生と日本の歌を披露熱唱 写真下左：筆談も用いて話を交わす本学学生と煙台大研修生 写真下右：中国の若者に人気の日本の歌謡曲を紹介する朱さん 写真はいずれも本学中国語講義と研修生の合同講義



写真上：研修生と本学教職員記念写真 写真下左：研修修了式では森本学長から修了証書が手渡された
写真下右：研修修了式での山東大学研修生代表による挨拶

交換留学生が 出発

去る8月23日、韓国の大田大学校の短期留学プログラムに参加する学生10名が千歳空港から出発しました。参加学生は5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。本学の提携校である大田大学校において、約5ヶ月間にわたり、語学プログラムを中心に韓国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年の1月15日に帰国する予定です。また、9月6日に中国の山東大学(威海)の短期留学プログラムに参加する14名、煙台大学の同プログラムに参加する17名、合計31名が新千歳空港を出発しました。参加学生は同じく5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。各協定校において、約5ヶ月間にわたり語学プログラムを中心に中国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年1月13日に帰国する予定です。（水野）



写真左：出発前の韓国交換留学派遣学生 右：出発前の中国交換留学派遣学生と同行する教員

2017、18 年度の キャリア支援について

冬を迎え現4年生（2018年3月卒業）の就職活動は終盤にさしかかっています。就職情報サイト運営企業の情報を元にした新聞報道等によれば、6月1日時点で7割を上回った内定率は、10月1日に9割を超え(全国62大学4,770人を対象とした文部科学・厚生労働省調査では10月1日時点で75%)、近年では最高水準にあるようです。企業側の採用意欲が昨年にも増し高まっている背景には、好調に推移する企業業績や逼迫してきた新卒者の採用等があるようです。特に人手不足感の強い流通関連企業や中小企業の中には、採用計画を下回るところも多くみられますが、だからといって採用基準を安易に下げない採用姿勢は注意を要します。売り手市場といっても、みなさん油断は禁物です。

3月1日広報活動開始、6月1日採用選考活動開始、10月1日正式内定日という平成28(2016)年度から始まった現行の就職活動日程に関する取り決めは、来年度も継続されることが決まりました。ただしこのルールは経団連が公表した指針で、あくまで加盟企業間の紳士協定であり、現3年生を対象とした採用活動は、実質的に12月頃から経団連非加入のIT系企業等を皮切りに、徐々に始まると予想されます。また内閣府等の調査では、選考開始時期を5月以前とする企業が全体の6割を占め、同じく4割は内々定(正式内定以前に出される内定)まで出しています。選考時期が早期化する実態が明らかになっています。

近年注目されるインターンシップ(就業体験)では、参加学生、受け入れ企業ともに増加したのが今年の特徴で、平成29(2017)年度は実施企業が5割近くに達しました。実施の時期は17年2月と16年8月に集まり、日数は従来型の一週間前後（5～9日）が4分の1に減り、替わって1日が4割弱、2～4日が2割と短期化が進みました。ただしアメリカのような採用選考を兼ねたものは1割に満たません。

本学では3年生対象に前期6回、後期10回のガイダンス・就職支援講座を開催し、就活開始前の時期にあわせて個別面談を実施します。また個別相談には随時対応しています。業界研究会・合同企業説明会(共催 北海学園大学)も含めて、積極的に参加してください。(村松)

後期ガイダンスを 実施

平成29(2017)年度後期ガイダンスを9月13日と14日に実施しました。13日午前に2年次、午後1年次、14日午前に3年次、午後4年次、それぞれ各学年に必須の連絡事項と注意事項について、教務センター、学生支援センター、キャリア支援センターがガイダンスを実施しました。教務センター長からは本学の3つのポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション）が説明され、学生達は大学の基本方針を確認しました。併せて、講義中の基本マナーの確認やコンピュータ教室内での飲食禁止の徹底など、講義受講上のルール遵守を図るための指導も行なわれました。各学年のガイダンス終了後に2年次と3年次の専門ゼミナール申し込みと履修許可発表を行い、9月15日～9月19日の期間にGPAポイント順に各学年の履修登録を行いました。履修登録科目の訂正は9月20日と21日に実施し、後期の講義は9月25日からスタートしました。（佐藤）



後期3年次ガイダンス



後期2年次ガイダンス

HINAS 特別セミナー 中国社会科学院との 交流

HINAS(ハINAS)とは、「北海学園北東アジア研究交流センター(Hokkaigakuen Institute for Northeast Asia Studies)」のことで、商科大学が札幌に移転した時から商科大学8Fに設置されている。北海学園は中国社会科学院と学術交流協定を結び、ハINASに中国の国家諮問機関である中国社会科学院の「中国社会科学院北海道研究交流センター」が併設され、研究者の往来やハINAS国際セミナーなど多彩な交流事業が行われている。社会科学院からさまざまな分野の研究者が直接（ハINAS訪問を主とする）あるいは間接（他の地域での研究交流を終えた後訪問）にハINASを訪問される回数はほぼ2か月に1回ほどであり、延べ人数は20名以上を超える状態である。

今年度は、北海商科大学の「公開講座」の講師として参加してもらったほか、8月と12月には、社会科学院の経済研究所と世界経済・政治研究所の所長を中心とする研究者が来訪され、中国の「世界戦略」である「一帯一路」に関係したセミナーを開催した。聴講対象を一般市民にまで拡大して、中国の戦略の意図や目的を講演してもらい、参加者からの

3年生対象 就職ガイダンス・講座および就活支援イベントのスケジュール一覧 [2017年度]

前期		後期	
ガイダンス / 講座等名	実施日	ガイダンス / 講座等名	実施日
第1回 就職ガイダンス 民間 + 公務員について	4月11日(火) 4月13日(木)	SPI フィードバック	9月28日(木)
適性検査受検	4月17日(月)～21日(金)	振り返り講座	10月16日(月) 10月19日(木)
学外インターンシップについて	5月9日(火) 5月11日(木)	第3回 就職ガイダンス	11月7日(火) 11月9日(木)
適性検査フィードバック	6月9日(金)	自己分析講座	11月28日(火) 11月30日(木)
SPI 模擬試験受検	6月26日(月)～30日(金)	企業・業界研究講座	12月5日(火) 12月7日(木)
第2回 就職ガイダンス 民間 + 公務員について	7月11日(火) 7月13日(木)	面接・グループディスカッション 講座	1月16日(火) 1月18日(木)
就活支援イベント(北海学園大学キャリア支援センターとの共催)		メイク講座	1月22日(月)
○学内業界研究会：11月21日(火)～12月8日(金) ○学内OB・OG訪問：12月11日(月)～2018年1月19日(金) ○業界研究イベント LIVE Voice：2018年2月5日(月)・6日(火) ○合同企業説明会(4年次)：2017年3月・6月・10月		第4回 就職ガイダンス	1月23日(火) 1月25日(木)
		マナー講座(男子学生編)	1月30日(火)
		マナー講座(女子学生編)	2月21日(木)
		個別面談	2月開催！



学内業界研究会



合同企業説明(6月)

2年次所属学科 決定



学部入試への移行に伴う2年次後期の所属学科決定作業は、今年度で6回目となりました。学生の所属学科志望を考慮し、両学科の入学定員に対し志望が偏った場合には、1年次の成績評価に基づくGPAポイントを活用して所属学科の選考を行うことを1年次から周知して、3月23日に新2年次ガイダンス、5月23日に第1回所属学科選考ガイダンス、6月6日～6月15日にかけて両学科の専門ゼミナール見学会を実施しました。6月28日に第2回所属学科選考ガイダンスを実施した後、CoursePowerを利用して「志望学科届」を受け付け、選考作業を行いました。選考対象学生193名のうち商学科志望107名、観光産業学科志望62名、志望学科届未提出者24名となり、観光産業学科の定員60名を2名超過したため、未提出者24名を商学科所属として、商学科131名、観光産業学科62名で所属を決定しました。後期ガイダンス前の9月12日に選考結果を学内掲示板で発表しました。(佐藤)



特別セミナーで講演する中国社会科学院の裴長洪教授



8月の特別セミナー(奥・右3名が中国社会科学院の研究者)

質問を受けた。大変貴重なセミナーであったとの評価を受けている。今後とも、多くの学生諸君の参加を希望したい。

また、11月には、中国社会科学院副院長の張江教授がヨーロッパ講演を終えて北海学園を訪問され、注目された中国共産党第19回大会の意義を紹介され、今後のいっそうの交流を強調された。その際、中国社会科学院が昨年度青島に大学を開設し、将来を担う人材養成を開始したので、ぜひとも北海学園の協力をお願いしたいという申し出があった。北海学園理事長森本教授はこれを受けて、今後の協力について最大限の努力を惜しまないと表明された。学生交流までも含む大きな交流の在り方については、今後早急に双方が話し合って決めていきたいとした。

こうした中国社会科学院との交流は北海商科大の発展にも大きく貢献するものと思っている。(西川)

外国語スピーチコンテスト

中国語スピーチコンテスト北海道大会入賞

本学学生が今年5月の「漢語橋——世界大学生中国語スピーチコンテスト北海道予選大会」で金・銀・銅賞を獲得したのに続き、10月22日に開催された第35回「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」において、秋吉美和さん（商学科3年生）が暗唱部で2位、井口まいさん（商学科3年生）が弁論部で3位に入賞しました。

本年度のコンテストの出場者は小学生から社会人まで25名と多数にのぼり、高水準の競い合いとなりました。結果は、「朗読の部」1位が高校生、「暗誦の部」1位が小学生、「弁論の部」1位が大学生と各自の語学力を発揮して入賞されました。本学の秋吉さんと井口さんはよく健闘し、見事に入賞を果たしました。二人にとって、今回のコンテストは自ら様々なことにチャレンジしてみる良いきっかけになったと思います。これからも彼女たちが高い目標に向かって絶えず努力していくことを心から期待しています。（蘇）



写真左：全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会でスピーチする秋吉さんと写真右：井口さん

北海道韓国語弁論大会に入賞

平成29(2017)年10月28日(土)に北海道立近代美術館講堂で開催された第19回北海道韓国語弁論大会（札幌韓国教育院・北海道韓国学園主催）に時田美央さん（商学部観光産業学科2年生）が出場し、銀賞に入賞しました。



写真上：北海道韓国語弁論大会の入賞者（左が銀賞の時田美央さん）と写真下：関係者一同による集合写真

10

11

北海道創生プログラム 特殊講義の試み

大学は地域社会とどのような関係を持つべきかを問われて久しい。しかし、大学と地域社会とを関連づけて専門に研究する分野はそれほど多くないし、学問の抽象的・一般的性格はどちらかというと地域の個別的具体な問題に対して無力であるとされる。こうした課題の解決を試みたのがこの講義である。大学の研究者が専門分野を超えて地域研究を実践する研究者とタッグを組んで、北海道の市町村がいかなる課題に直面しているかを明らかにし、市町村の「地域振興」部署とともに、「創生プログラム」を組み立て、それを学生諸君に紹介しようという講義なのである。

講義は3年目を迎え、市町村調査は2年目に入っている。北海道の開拓から開発をめぐる歴史的事項や各市町村が抱える今日の問題を学生に紹介し、学生の率直な意見を聞く時間を設けていることもこの講義のもう一つの特色である。一方通行の講義に対する問題点が指摘されて久しいが、どのような講義の在り方が良いのかについても十分に検討されているとはいえない。ただ学生の意見を聞けばよいというのではなく、学生が自らの意見を提起するような講義が求められるだろう。こうした意味における試みとして、ある具体的な町村に対して提起した「創生プログラム」の内容について、学生らの意見を求めている。

今後、このような新たな試みに挑戦する講義がたくさん増えていくことを望んでいる。

（西川）

中国語入賞原稿（日本語訳）

● 商学科3年 井口 まいさん「私は中国が好き」●

皆さん、こんにちは！今日私が話したいことは、「私は中国が好き」です。

一、中国語はとても美しい言語です。私達が『四字熟語辞典』、『ことわざ事典』を見ると、見出しの多くが中国から来たものと発見できます。一言の四字熟語、それは私たちに1つの歴史を告げます、1つのことわざは私達に物語の道理を分かせます；1つの寓言のストーリーは私達に精神を与えます。例えば：四面楚歌が描くのは、楚漢が争い、項羽に閉じ込められ、劉邦が楚歌歌って、胡馬北風に依る、戦い続ける気がない、最終的に大敗した1つの歴史。そして「孟母の三居」、「愚公移山」、「百聞は一見に如かず」など日本人にも知られる故事もあり、中国の歴史の文化を伝承しているだけではなくて、極めて大きく日本の言語をも豊かにしました。だから、私は中国が好きです。

次に、中国は日本に古代文明を伝えました。京都と奈良に行ったことがある人はすぐ寺院、庭と書画、彫塑の中に中国文化の元素を見つけることができるのを発見します。だから、私は中国が好きです。

三、私は新しい中国を見ました。現金に取って代わって支払うアリペイ、高鐵四通八達、港珠澳大橋は今の世界最長の大橋。私の中国人のクラスメート、彼らには信念があり、理想があり、奮闘する目標を持っています。あるクラスメートは来年スペインへ留学に行くつもりで、さらに今後イタリアへ留学する計画があります、今彼女は努力し準備をしています。それからほかの友達は家を買うため一生懸命働いています。ある日私は彼らに「大変ですか」と聞くと、彼らは「大丈夫、ただ自信はあるから必ず成功する」と言いました。みんなの性格はそれぞれ違うけど、多くの中国人は苦境の中でも頑張っています。だから私は中国が好きです。

しかし、私が日本の友達に中国を語ると、彼らは「あなたはどのようにそんな恐ろしい国に行くの」「私は絶対行きたくない」などと言います。今の日本人は中国に対する印象が悪く、その印象を変えることが非常に難しいと感じました。私たちが知っている「京の従兄弟の隣かえず」の道理、どうして本当の中国を知りたくもないのですか？私は私たちが井の中の蛙になってしまわないか心配です。

韓国語入賞原稿（日本語訳）

● 観光産業学科2年 時田 美央さん「どうしてそんなに食べたくなるの？」●

私はすすきにあるスアゲというスープカレーの店でアルバイトをしています。キムチありますか？とよく韓国人のお客さんに言われます。たくさんの観光客が来てその中でも韓国人が来ることはとても多いです。もちろんスープカレーのお店なので、キムチはありません。ある日、バイト中に店の中がキムチの匂いがする時がありました。どうしてキムチの匂いがするのか分からないまま、そのまま仕事をしていました。しばらくして韓国人のお客さんのテーブルの上を見ると、韓国で売られているキムチを開けて食べていました。日本ではお店に食べ物を持ち込んで食べるということは基本的にはしてはいけません。でもその時私は、キムチを持ち込んで食べるなんてありえないと思うよりも韓国人はキムチをこんなに食べたくなるんだと思いました。私は2016年9月から1月中旬まで約5ヶ月間韓国の大田大学校へ留学をしていました。私も韓国で生活していたとき韓国料理のお店だけでなく、洋食料理のお店にもキムチがあり、韓国で生活し始めたころは韓国の食文化でもあるキムチに対し、違和感を抱いていました。そんなにキムチが食べたくなるものかと思いながらも、外食をしたときキムチが出てくる、食べるを繰り返していました。そして5ヶ月後日本に帰って来て生活していると、気がついてしまったんです。無性にキムチを食べたくなくなってしまっていることを。キムチを何年も食べている韓国人たちがキムチを食べたくなるのはあたりまえです。なぜなら、たった5ヶ月間生活していただけた私が食べたくなったのですから。キムチといえば韓国人にとって、無くてはならない国民食のイメージだと思います。ですが、最近は若者のキムチ離れが起きているそうです。食生活が欧米化してきていることが、原因のひとつであるといえます。これを聞いた私は、韓国の食文化でもあるキムチを若い人にもっと大切にしたいと強く思いました。食文化だけでなく昔ながらの風習や文化を守めることは簡単な事ではありません。文化を守るには、若い人たちが自分の国の文化を理解し、受け継いでいかなければなりません。キムチをなぜこんなに韓国人が食べるのか、食べたくなるのかを私は、留学とアルバイトで理解できました。なので私は、アルバイト中にキムチありますか？と聞かれる度に、韓国人のキムチ愛を感じます。これからも韓国人がキムチは韓国の国民食だと誇って欲しいです。



複数の教員が担当する第4セメスター・特殊講義「北海道創生プログラム講義B」



写真上：近海郵船北海道(株)の「ひだか」
写真下：説明会の様子

物流施設見学・就職説明会 in 苫小牧に参加

平成29(2017)年11月4日に開催された「物流施設見学・就職説明会 in 苫小牧」に、本学の学生と教員が参加しました。この見学会・説明会は、国土交通省北海道運輸局・室蘭運輸支局・苫小牧海事事務所の皆様

が、物流の役割・重要性を北海道の大学生に知ってもらうことを目的に、

毎年開催している取り組みです。北海商科大学だけでなく、北海道大学など道内から全6大学から学生が参加しました。

本州との間には、自動車道が整備されていないため、北海道・道外間輸送はその大半を船舶に依存しています。なかでも、苫小牧港の担う役割は非常に大きく、北海道の海上取扱貨物量シェアの5割以上を占めています。これは、北海道に船舶によって出・入する貨物のうち約半分が苫小牧港を経由していることを意味しています。

今回は、苫小牧埠頭株式会社のオペレーション部門、倉庫事業部門、近海郵船北海道株式会社のRORO船「ひだか」の船内見学をさせていただきました。海上コンテナを扱う巨大なリーチスタッカー、全長約180mの「ひだか」のコックピット(操舵室)や船腹に参加者は圧倒されていました。見学会に加え、苫小牧埠頭株式会社の皆さんとの意見交換会、物流セミナーなどを経て、参加した学生の物流に対する理解、意識は高まりました。貴重な機会をくださいました苫小牧海事事務所の皆様、苫小牧埠頭株式会社、近海郵船北海道株式会社の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。(相浦)

中鉢ゼミ バリ観光 現地調査

観光産業学科 3年 北 阿子

中鉢先生のゼミに所属している私は、夏休み期間中の9月7日～12日までの6日間、ゼミ調査でインドネシアのバリ島へ行きました。学生は先生を含め8人でした。

今回の旅行内容をいくつか紹介します。まず宿泊先のクタです。クタは若者の街とも呼ばれ、安いホテルも多くあります。近くのクタビーチでは日の入りが近くなると人が増え、夕日が非常に美しく、私が今までに見た中で1番の夕日でした。ウブドではライステラス(日本で言う棚田)を見に行きました。生で見ると格段に違い、植物の緑が綺麗に表れていました。ジンバランでは、バリ島の6大寺院の1つであり、海の霊が祀られていることとしても有名なウルワツ寺院へ行きました。断崖絶壁から眺める海や夕日、舞踊劇のケチャダンスは言葉が出ないくらい美しかったです。

今回の旅行で感じたのは、バリ島のインドネシア人は笑顔が素敵で優しい方ばかりだということです。日本人だと分かると、日本語で話しかけてくれる方が多かったです。人柄に惹かれたのもそうですし、行けてない所もまだまだあるため、バリ島へはまた必ず行こうと思っています。



ウブド王宮前で



写真左上：ウブドのライステラス(棚田) 写真上右：ウルワツ寺院の参道で(絶壁の眼下75mにはインド洋) 写真下：日没の海岸(クタ)

留学だより

商学部1年 川原 凌 ● 中国・煙台大学留学

私は現在、中国の煙台大学に半年留学にきています。私自身初の海外で、更に半年も日本を離れるとなると楽しみな気持ちが多い反面、不安も沢山ありました。しかし、実際に生活してみるとその不安とは裏腹に毎日新しい発見や出会いがあり、とても貴重で刺激的な経験をしています。

この留学を通して、多くの人と交流することは本当に大切なことだと感じています。

煙台大学には日本語学科があり、日本語で意思の疎通をとれる人がたくさんいて、その人たちと食事に行ったり、買い物に行くと美味しい食べ物や、お勧めの場所、座学で学ばない様々なことを教えてくれます。

また、留学生寮には日本人の他に韓国や西欧の人も多く、私は韓国の方とよくサッカーをしています。言葉こそ上手く通じないこともあり、苦労しますがそこでただ通じないで終わらせず伝えようとする姿勢が大切だということも学んでいます。

現在、留学に来て約半分が経ちましたが、毎日が本当にあっという間に過ぎていきました。残りの留学生生活を充実させるためにも積極的に交流し、少しでも成長できるように頑張ります。

商学部1年 渡辺 詩織 ● 中国・山東大学(威海)留学

現在私は、山東大学(威海)に交換留学生として半年間の留学にきています。中国に来てまもない頃は本当に何もわからず、これからの生活に不安を抱くことがありました。しかし今は、授業で習った単語や文法を使って他の留学生と行事に参加して交流を深めたり、寮の管理人の方や警備員の方と中国語で挨拶をすることが少しずつ増えていきました。さらに、沖縄の大学から来ている日本人留学生も在学しており、その先輩方に学校生活の分からないことなどを教えて頂いたりとても充実した留学生生活を過ごしています。

また、山東大学(威海)には日本語学科という日本語を勉強している学生達おり、授業に参加して日本語と中国語を教えあったり行事の練習を一緒に行ったりしています。日本語学科の生徒たちと交流が出来ずに留学生活が終わってしまうと不安がありましたが、こうして交流の場を増やしてもらい、とても嬉しかったです。

留学することで自分が感じていた中国のイメージが大きく変わり、授業や行事・文化に触れて毎日刺激を受けています。残り少ない留学生活ですが、1日1日を無駄にしないよう積極的に様々なことを経験して頑張りたいと思います。

商学部1年 伊東 さくら ● 韓国・大田大学校留学

私が大田大学校に留学してから約3ヶ月が経ちました。最初は慣れない環境ということもあり、とてもストレスを受けました。勉強面でも、韓国語を聞き取ることができなかつたり、授業速度が速く、ついていけず、自分に失望することが多々ありました。ですが、日を重ねていく度に慣れていき、今では自分でも韓国語の能力が上がったと実感出来るようになりました。そして、体育大会やフードフェスティバルなどの学校行事など、楽しいイベントがたくさんあり、いい思い出を作ることができました。更に、大田大学校には様々な国からの留学生がいるため、韓国人の友達だけでなく、中国人やベトナム人など、様々な国の友達ができ、自分の考え方や価値観を広げることができました。そして、何よりも韓国の文化を肌で感じる事ができ、毎日新たな発見をすることが出来ます。

留学生活もあと残り少ないですが、1日1日を大切に、ここでしか経験できないことをたくさんして、悔いの残らない留学生活にしたいです。また、1月のTOPIKに向けて頑張りたいです。



日本語学科の2年生と交流



日本語学科の学生と交流



外国人留学生フードフェスティバルに参加した本学生。後列右が伊東さん

研究のいま ●古矢 旬 教授 「やり残した宿題」

来春の退職を控え、準備と思切りのいい研究者ならば残された仕事にとうに終止符を打ち、悠々と後片付けに取りかかっているべきこの時期に、生来の怠惰と愚図に老化も重なり、なお未完の仕事を抱え汲々と暮らす毎日である。

半世紀近く「アメリカ学」という分野で細々と研究を続けてきたものの、近年における斯界の発展はまことにめまぐるしく、内外の学界の変化について行くことさえ難しくなっているように感じている。つい先頃まで、アメリカ研究の主要な枠組みは、過去二十年間に著しい進展をみたグローバリゼーションへの関心に由来していたように思う。そこで主として問われてきたのは、アメリカ合衆国の政治経済の内に、地球大の画一化を促進するようないかなる普遍的な動因が働いているのかという疑問であった。しかし、こうした問題関心のありようは、イギリスのEU離脱やヨーロッパ各国内の排外主義の台頭、アメリカにおけるトランプ大統領の登場などで揺れた昨年来、大きく反転したようである。いまや、多くのアメリカ研究者の関心は、トランプ現象の背後にある、アメリカ国民経済・国民社会の特殊性やアメリカ・ナショナリズムの由来と現状に向けられつつあるように思われる。

現代アメリカを中心に研究してきた身としては、現実政治に突き動かされた感の強い、この研究枠組みの

突然の転回には戸惑うばかりである。ただ、ふりかえってみれば、アメリカという国民国家は、一方で自国に有利なときには世界を自らの都合に合わせて従わせ、変えてゆこうとする衝動と、他方で世界情勢が自国に不利に働くときには内向きに孤立主義的に振る舞おうとする衝動との間でつねに揺れ動いてきたといえることができる。そして思い返せば、このアメリカ史における介入と孤立、外向きと内向きといった内在的な矛盾こそは、私のアメリカ研究にとって中心的な課題であったようにも思うのである。

最初に申しあげた、アメリカ研究者としての私にとって残された仕事の一つは、1970年代中葉からトランプ時代に及ぶアメリカ現代史の解明である。この時代を、ポスト・ヴェトナム戦争、ポスト・公民権運動、ポスト・ウォーターゲイト事件という外交、人種関係、大統領制に関わる三重の変化が起こった複合的な過程としてあきらかにすることが、そこでの課題である。

もう一つは、アメリカ民主主義および立憲主義の特性を、その大本にまで遡って理解するために、アメリカ政治史に登場した古典中の古典と目される『ザ・フェデラリスト』全85篇を全訳し、註を付する仕事である。

いずれの仕事も、何年先になるかは分からないけれども、出版を計画しており、完成の暁には、それらの書物をとおして、お世話になった北海商科大学の同僚の方々とあらためてお会いできることを夢見、励みとして研究を続けてゆきたいと願っている。長くお世話になりました。深く御礼申し上げます。



●古谷先生の主な著作
『アメリカニズム―「普遍国家」のナショナリズム』単著
(東京大学出版会)、『アメリカ政治外交史』共著(東京大学出版会)、『ブッシュからオバマへ―アメリカ変革のゆくえ』単著(岩波書店)



株式会社河野銘木店と中西ゼミの皆さん



会計学の世界では、経済のグローバル化に伴い国際会計基準の導入など企業の財務内容は国際化への対応が求められています。中西コース研究ゼミナールは財務会計の知識を習得することによって、企業の財務内容を把握して財務会計の観点から日本企業の実態を研究しています。

ゼミナールの特徴としては、第一に、アクティブラーニングを積極的に取り入れています。①各グループで一定のテーマを議論し、パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行っています。さらに、②経済関係のテーマについて、グループディスカッションを行い、発表の評価を学生が行ったりもしています。これらによって、調査した内容について自己の意見を明確に相手に伝える能力を養うようにしています。第二に、身近な経済を肌で感じるために、企業訪問などフィールドワークを実施しています。札幌証券取引所や札幌市内の企業を訪問し、実際に携わっている人から生の経済情報を聞き、北海道企業の経済状況を実感しています。2年次後期に所属学科選択が決まり、商学科生としての専門的学修をスタートさせた2年生が中心のゼミにとっては、企業訪問の経験はまだ多くあ



ゼミ訪問

中西 良之 准教授 ● コマース研究ゼミナール I

商学部商学科では2年次後期(第4セメスター)から4年次前期(第7セメスター)までの2年間、コマース研究ゼミナールを履修します。商学や現代ビジネスに関する専門的知識を幅広く学習し、さらに、学んできた知識の理解を深め、習熟度を高めることが目的です。今回はその中から中西良之准教授のゼミナールを紹介し

りません。大学での学びを実社会で生かしていくため、キャリアデザインを描いていくうえでも貴重なフィールドワークといえます。

11月、企業訪問先に選んだのは、本学から歩いて5分に所在する株式会社河野銘木店でした。1952年創業で100種類を超え、道内一ともいえる種類の無垢材を扱っている専門店です。この日は河野由樹子代表取締役をはじめ社員皆さんによる、様々な無垢材や製品・仕入れ・製造過程などについてのお話、実際の製造現場も見学させていただきました。ゼミ長の五日市隆君は「実際の企業、制作現場と直に接することができてとても新鮮でした」、副ゼミ長細谷千尋さんは「家具という生活の中で身近なものが、材料から製品になる過程まで全てを知ることができました」と、今後はこの訪問の感想や学生の視点での提案などをレポートにまとめる予定です。

写真 株式会社河野銘木店のショールーム木心庵で様々な銘木と家具見本を見学。河野銘木工場で製造現場を見学

O B・OG NOW!

私は平成23(2011)年3月に北海商科大学を卒業、平成25(2013)年3月には北海商科大学大学院を1期生として修了し、その後は国税専門官として札幌西税務署に勤務となりました。

札幌西税務署ではまず、「管理運営部門」という税金の基本的な相談、申告書等を受理する部門に配属となりました。

その後、「徴収部門」という税金を滞納している方から納付相談を受けたり、搜索及び差押えを行って税金を徴収する部門に配属となりました。「トッカン」というドラマを見ていたので徴収部門がどういいう部門なのかイメージはありましたが、実際に納付相談を受けるといのは大変なことでした。お金が無いと相談しに来た人が実際には金銭的に余裕がある場合もあり、見極めるのが難しい仕事です。そういう方



● 国税専門官 横山 直哉さん

〔平成23年本学商学科卒業
平成25年北海商科大学院修士課程修了〕

と時間をかけて話し、「あなたと話せて良かった。今後はきちんと納付する。」と言われた時には今の仕事にとってもやりがいを感じます。

今年初めて転勤となり、現在は根室税務署で「管理運営・徴収部門」に配属となり、主に徴収の仕事をしています。

税務職員は頻繁に転勤があり、転勤に不安もありましたが、転勤してみると各地の美味しいものを食べられたり観光することもできたり、楽しく過ごすことができています。

私が国税専門官として働こうと思うきっかけをくださったのは大学時代の教授です。教授から国税専門官を教えてくださいなれば今の自分はありません。

大学院修了後も、仕事の終わりに資格取得学校へ行き勉強する生活を送り、勉強することはとても大切なことだと思っていますが、何より色々な人と交流することが大切だと思っています。大学1年次には中国留学に行き、国際交流ができたことも良い経験になっています。

北海商科大学では色々な人と交流することができるので、是非楽しい大学生活を送ってください。



勤務先の根室税務署にて(写真2点とも)

懸賞作文の募集と表彰式

第5回高校生

恒例になりました北海商科大学主催第5回高校生懸賞作文を募集しましたところ、道内各地から70編の応募がありました。この懸賞作文の募集は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として、平成24(2012)年度より実施し今回で5回目です。作文のテーマは例年に引き続き「①日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちの観光スポット」「②日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのグルメ」「③日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのお土産」のうちどれか一つを選んで応募していただきました。

伊藤昭男学部長と入賞者の皆さん



●入賞者一覧〔敬称略〕

順位	氏名	在学高校名・学年
1位	釜澤 幸大	札幌国際情報高校3年
2位	多田 葵泉	札幌国際情報高校3年
3位	安住 侑也	札幌啓北商業高校2年
3位	秋山 七音子	札幌国際情報高校3年
3位	斎藤 南瑠	札幌国際情報高校3年
3位	阿部 玲実果	札幌啓北商業高校2年
3位	鳴海 玲奈	上ノ国高校3年
3位	坪田 晴菜	石狩南高校3年
3位	大澤 祐太	札幌稲雲高校2年
3位	可兒 清夏	札幌国際情報高校3年
3位	出田 奈津美	札幌国際情報高校3年

体育祭 & 北海商科祭

Photo Gallery

平成29(2017)年度の北海商科大学体育祭「Go for it～目指せ商科の1等賞!!～」が、11月11日の土曜日にNTT北海道セミナーセンタ体育館で行なわれました。体育祭は第4回目の2009年から同体育館で開かれておりましたが、施設側の事情で閉館することになり、同体育館で行なう体育祭としては、最後の開催になりました。

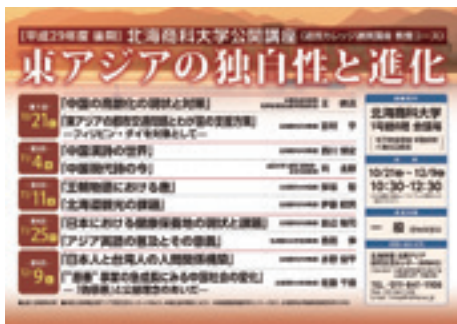
当日は1年生から4年生まで、バレーボール33チーム、玉入れ15チーム、大縄跳び8チームで、テーマにある「商科の1等賞」を目指して熱戦を繰り広げました。

バレーボールでは、豪快なジャンプサーブが炸裂するたびに歓声が上がり、気合いのはいった大縄跳びでは、カウントするかけ声とジャンプするときの足音が館内の隅々にひろがりました。玉入れではなんとパーフェクトの100個投入が達成され、身体能力だけでなくチームワークの良さが光りました。屋外では発達した低気圧の通過で雨交じりの強風が吹きつける荒れた天気でしたが、屋内の体育館では若者のエネルギーと明るい笑顔が充ち満ち、楽しい一日となりました。（加藤）



東アジアの独自性と進化 —が開催される

平成29(2017)年度 後期公開講座開催



写真左：後期公開講座のポスター

写真右：後期公開講座第1回講師の中国社会科学院
世界経済政治研究所副所長・王徳迅氏による講義「中国の高齢化の現状と対策」

北海商科大学公開講座を上記の全体テーマの下で開催しました。

■日時：平成29(2017)年10月21日・11月4日・11月11日・11月25日・12月9日
(全5回、10：30～12：30)

■場所：北海商科大学1号館8階会議場 ■参加対象：一般市民（学生を含む）

本学の公開講座は2007年度より前期・後期の年2回で開催され、今年度で11年目を迎えました。後期の講座は10月21日(土)から12月9日(土)まで、多彩な内容で5回にわたって実施しました。本講座の目的の一つは、本学の教育目標が北東アジアの情勢に留意して「アジアの時代にアジアを学ぶ」ことに置かれ、現代社会の急速なグローバル化に対応した教育研究が実践されていることを、広く皆様にご覧になっていただくためです。幸い、毎回多数の市民の方々が参加され、熱心に聴講されています。今期は過去と現代文化の対比や、過去と現代社会の諸相の探究という観点から、「東アジア社会の独自性と進化」をテーマとしました。また講師陣は、中国国务院直属で最高学術機構である中国社会科学院の研究者、本学の協定校である中国からの交換教授、学外の専門家、さらには本学の教授となっています。なお、今年度からは、道民が自発的に学習し21世紀の北海道を支える人材育成のために設立された、道民カレッジの連携講座にもなっています。限られた回数ではありますが、本講座が単に知識の習得にとどまらず、日本を含めた東アジアひいては世界の人々の相互理解および国際交流へとつながることを期待しています。今後とも多くの方々の積極的なご参加をお願い申し上げます。(田辺)

●協定大学来日教員紹介●



劉 北野 先生

リウ ベイイエ

1963年陝西省生まれで、北京の人民大学新聞学科卒業ののち、新疆ウイグル自治区の日刊紙『新疆日報』などで記者や編集者、コラムニストとして20年あまり勤務しました。2005年に山東大学威海校新聞メディア学院（現在の文化メディア学院）の准教授に就任しました。同校書道研究院にも所属しています。授業は「ニュース取材と記事執筆」「編集」「詩の鑑賞と詩作」「書道」などを担当しています。

ペンネーム「北野」として詩人や書道家としても活動しており、中国作家協会会員で、威海市詩歌協会の名誉主席も務めています。おもな著作に『馬嚼夜草の声音（夜の馬が草を食む音）』（2000年、北京・華夏出版社）、『北野短詩選』（2002年、香港・銀河出版社）、『在海辺の風声里(海辺の風の音)』（2008年、山東省・黄河出版社）などがあります。「思想を紙上に書く。漢字で詩篇を綴る」を座右の銘としています。(劉)

BOOKS NOW! ●図書館で語学力UP!! ●



写真上：ニールセン先生と教材を利用する商学科3年生和田飛翔君
写真下：図書館エントランス左側に設置されている新刊図書コーナー



語学検定試験用図書コーナー

附属図書館では、本年夏休み明けから語学検定試験用図書のコーナーを設置しました。発案者はニールセン・ブライアン先生です。先生は日頃より学生の英語能力の向上に大変努力しています。図書館にTOEICや観光英語、英会話関係の教材が一つのコーナーにまとまっていれば学生は利用しやすいと考えました。これらの教材にはDVDも付録していますのですぐ近くの視聴覚コーナーで聞くことができます。コーナーには①韓国語能力試験(TOPIK)、「ハングル」能力検定試験、「K-POPで韓国語」など韓国語関係の教材や、②中国語検定試験(HSK)などの中国語関係の教材も多く揃えています。

新刊図書コーナー

館内には学生向けの新刊図書コーナーが設置されています。教員が学生向けに推薦している図書もありますので入館したときには是非手に取ってください。今、話題の本、学生が大学時代に読んで欲しい本など自分の人生を変える本が1～2.5カ月くらいの周期で入れ替わっています。知識の宝庫である図書館に昼休みなど講義の空き時間に足を運びましょう。一冊の本で人生が大きく変わるかもしれません。(中西)

新刊紹介

医務室から『二十代の健康』⑪ 医務室 二瓶 妙子

「糖質」について —オンライン記事から—

東洋経済 ONLINE 2017年11月14日掲載 ©

糖尿病1000万人時代！
「糖質制限」を徹底せよ
「カロリー制限だけ」は時代遅れすぎる



糖質制限を徹底しましょう

11月14日は「世界糖尿病デー」である。9月に発表された厚生労働省の2016年の調査によれば、日本の糖尿病の有病者1000万人、予備群1000万人。合わせて2000万人の「国民病」ともいうべき状況になっている。糖尿病は静かに進行するものの、さまざまな「死の合併症」を招き、人工透析にもつながりかねない恐ろしい病気である。早急な治療、特に適切な食事療法が必要とされる。

この糖尿病の治療食としては、近年「糖質制限食」が急速に広まってきた。その一方で、いまだ「カロリー制限食」を指導する糖尿病専門医も多い。

糖質制限食の第一人者で『江部康二の糖質制限革命』の著者でもある江部康二氏は、カロリー制限はもはや時代遅れで、糖尿病患者には必ず糖質制限を指導すべきだと主張する。http://toyokeizai.net/articles/-/197075?utm_source=rss&utm_medium=http&utm_campaign=link_back

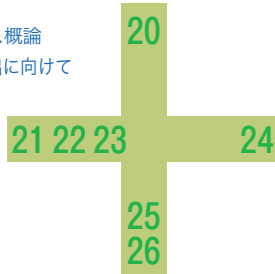
最近、スーパー、コンビニなどで「糖質0」「糖質OFF」「糖質50%」などの表示をよく見かけるようになった。少し前までは「糖質制限」ブーム到来!といったマスコミの取り上げ様だったが、今ではすっかり生活に溶け込んでいる感がある。そして、日々の生活でも「糖質」を意識することが多くなった。

この夏3年来の「蕁麻疹」を何とかしようとアレルギー科を受診したが、「糖質」の摂りすぎで「糖質依存」になっていると医師にいわれた。「糖質」が免疫力を低下させ、蕁麻疹という形で体への危険シグナルを出しているとのこと。「糖質」が様々な形で「病氣」として表れるものだとし身を持って実感したことになる。

砂糖は体によくないとは以前から言われているが、これからは砂糖だけではなく「糖質」という括りで見ることが必要な時代になったのかもしれない。



観光ビジネス・エコノミクス概論
—地方における新たな市場創出に向けて—
伊藤昭男 単著
2017年8月／批評社



浅羽祭举行される



学校法人北海学園主催による平成29(2017)年度浅羽祭が10月23日(月)に、ご遺族、大学・高校関係者、学生・生徒の代表など約40名程が参列し執り行われました。浅羽祭は本学園創立功労者である浅羽靖先生の名を冠し、この1年間に逝去された北海学園教職員ならびに学生・生徒の御霊を、ご遺族・関係者参列のもと慰霊するものです。

(葛西)

行事予定

平成29(2017)年	2/20㊦ 一般入学試験合格発表
12/19㊦ 振替講義日(金曜日)	センター試験利用入学試験合格発表表(Ⅰ期分)
12/27㊦ 冬季休業開始	3/1㊦ 卒業生発表
平成30(2018)年	3/6㊦ 後期修学指導面談②(予定)
1/9㊦ 冬季休業終了	3/13㊦ センター試験利用入学試験合格発表表(Ⅱ期分)
1/10㊦ 講義再開	3/18㊦ 卒業証書・学位授与式、卒業生を送る会
1/13㊦・14㊦ 大学入試センター試験	3/22㊦ 学年末休業終了
1/18㊦ 卒業論文提出期限(予定)	3/23㊦ 新3年次ガイダンス
2/1㊦ 振替講義日(土曜日)、後期講義終了	新2年次ガイダンス
2/2㊦ 学年末休業開始、成績開示、	3/24㊦ 新4年次ガイダンス
2/2㊦・2/3㊦ 成績・採点異議申し立て受付	3/26㊦ 新2年次履修登録
2/8㊦ 一般入学試験	3/27㊦ 新3年次履修登録、新4年次履修登録
2/13㊦ 一般入学試験	3/29㊦・30㊦ 履修登録訂正日(全学年)